

# ちばっ子の学び変革！

| 研究指定校の取組（令和元年度） |  |
|-----------------|--|
| 校名              | 県立船橋東高等学校  |
| 研究概要            | <p>(1) 研究課題 学力向上（「ちばっ子の学び変革」推進事業）</p> <p>(2) 研究主題 「アクティブラーナー（能動的学習者）の育成を目指した授業の在り方に関する研究」～「アクティブ・ラーニング」の視点から主体的・対話的で深い学びを試みた授業実践を通して～</p> <p>(3) 研究計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 研究推進体制の整備及び研究主題・研究計画の策定</li> <li>② 県外授業改善先進校視察の実施</li> <li>③ 校内研究授業及び研究協議会の実施</li> <li>④ 公開研究会（研究授業・講演会）の開催</li> </ol>  |
| 実践内容            | <p>(1) 研究推進体制の整備及び研究主題・研究計画の策定</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 校内推進委員会の設置 <ul style="list-style-type: none"> <li>○校長、教頭、ベテラン教員、若手教員研修チームを委員とした「新たな学び推進委員会」を昨年度より引き続き設置し、研究主題・研究計画を策定</li> </ul> </li> <li>② アクティブ・ラーニングを積極的に用いた研究授業の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>○A L 指数を用いた授業を実施することで、進学校における効果的なアクティブ・ラーニングの在り方を探る。</li> </ul> </li> <li>③ 個人研究計画の設定（公開研究会授業実施者） <ul style="list-style-type: none"> <li>○個人研究主題を設定し、年間を通して研究を行う。</li> </ul> </li> <li>④ 校内研究授業及び研究協議会及び県外授業改善先進校視察等を企画・実施</li> <li>⑤ 公開研究会の開催</li> </ol> <p>(2) 県外授業改善先進校視察（若手教員 3 名を県外の授業改善先進校に派遣）</p> <p>アクティブ・ラーニング授業の先駆者と組織的にアクティブ・ラーニングに取り組む学校を訪問する。視察成果は、校内委員会研究協議会及び職員会議で報告し、職員全体に還元する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 茨城県立結城第一高等学校（6月18日） <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 授業参観（棚谷克彦教諭の授業（世界史 A） <ul style="list-style-type: none"> <li>○アクティブ・ラーニングの手法を用いた先進的な授業構成</li> <li>リードアウト（音読）→マーカーアクティブ（教科書内容のチェック）</li> </ul> </li> </ul> </li> </ol> |

|                  |   |
|------------------|---|
| 実<br>践<br>内<br>容 | <p>→レクチャータイム（生徒が起立し講義を聞く）→グループワーク（探究）<br/>→問題解決（意見のシェア）→クイックライト（小テスト）<br/>→サマーライトリフレクション（振り返り）</p> <p>イ 棚谷教諭との研究協議</p> <p>○授業実施するにあたり「ファシリテーターとしての教員」を強く意識することが重要である。教員は授業の司会者であり、アドバイザーでもある。</p> <p>② 茨城県立並木中等教育学校（6月19日）</p> <p>ア 授業参観〔中学部（社会、英語）、高等部（古典、数学、生物、英語）〕</p> <p>イ アクティブ・ラーニングについての説明（中島校長）</p> <p>○学校改革の一環として授業にアクティブ・ラーニングを導入することを推進</p> <p>○アクティブ・ラーニングか講義式授業かという二項対立的な議論からの脱却のために「AL指数」というアクティブ・ラーニングの実施率を示す指標を考案した。</p> <p>○大学入学共通テストを意識した内容を反映している。</p> <p>(3) 校内研究授業及び研究協議の実施</p> <p>① 若手教員による校内研究授業（6月）</p> <p>ア 研究授業の実践と反省</p> <p>(ア) 国語総合（1年） 故事成語「蛇足」、「五十歩百歩」</p> <p>○生徒同士の文章の読み合いを重視した授業実践（AL指数60）</p> <p>○様々な学習活動を学び、実践していく。</p> <p>(イ) 数学Ⅱ（2年） 傍線の方程式</p> <p>○対話を重視した授業実践（AL指数45）</p> <p>○今後も生徒同士の学び合い、教え合いを通して対話的な深い学びを実践する。</p> <p>(ウ) 生物（3年） 生殖と発生</p> <p>○対話を重視した授業実践及びICT活用（AL指数40）</p> <p>○現象に関する疑問や思考を引き出す工夫が課題である。</p> <p>(工) 生物研究（3年） 体内環境の維持</p> <p>○ペアワークによる協働学習における思考力・表現力の育成（AL指数40）</p> <p>○大学入試に必要な知識、理解、思考力の担保が課題である。</p> <p>(オ) 物理基礎（2年） 力と運動の法則</p> <p>○対話を通して問題演習及び既習事項から未習事項理解へと導く（AL指数50）</p> <p>○生徒同士の活動を促す工夫が課題である。</p> <p>(カ) コミュニケーション英語Ⅰ（1年） Canoe Is an Island</p> <p>○生徒同士の活動（ペアワーク等）を重視した授業実践（AL指数50）</p> <p>○活動や内容の焦点を絞り、一つの授業の中身をスリム化する。</p> |
|------------------|---|

|                  |   |
|------------------|---|
| 実<br>践<br>内<br>容 | <p>(キ) コミュニケーション英語Ⅱ(2年) Life in a jar</p> <p>○生徒同士の活動(ペアワーク等)を重視した授業実践(AL指数50)</p> <p>○各授業で重点となる技能を絞る等、効果的な授業展開を行うことが課題である。</p> <p>② 研究協議会(7月)</p> <p>ア 個人研究活動計画の発表(公開授業実施予定者12名)</p> <p>イ 校内研究授業実践報告(7名)</p> <p>ウ 県外授業改善先進校視察報告(3名)</p> <p>エ 公開研究会準備計画について</p> <p>(4) 公開研究会(11月15日)</p> <p>① 研究授業(12名)</p> <p>ア 国語総合(1年)「土佐日記」(序文についての考察と意見交換)</p> <p>〔個人主題〕自ら思考する力、他者に自分の考えを論理的に伝える力を伸ばす。</p> <p>〔AL指数50〕個人学習とこれに基づく意見交換、R80(振り返りで活用)</p> <p>イ 日本史B(3年) 織豊政権(織豊政権の特色)</p> <p>〔個人主題〕問いの連鎖により思考力・論理力を高める日本史授業</p> <p>〔AL指数20〕Think-Pair-Share、Q&amp;A</p> <p>KP法を活用したレクチャー、R80</p> <p>ウ 現代社会(1年) 消費者主権(生活設計・マネープランの作成)</p> <p>〔個人主題〕キャリア教育を見据えた現代社会～アクティブ・ラーニングの手法を用いて～</p> <p>〔AL指数70〕グループ活動、KP法、R80</p> <p>エ 数学Ⅱ(2年) 指数関数・対数関数(対数関数とそのグラフ)</p> <p>〔個人主題〕教師との対話、生徒同士の対話を通じた主体的・対話的な授業の展開</p> <p>〔AL指数30〕ペアワーク</p> <p>オ 生物(2年) 生命の起源と進化(進化のしくみ)</p> <p>〔個人主題〕教師との対話、生徒同士の対話を通じた主体的・対話的な授業の展開</p> <p>〔AL指数60〕シングルワーク、グループワーク</p> <p>カ 生物研究(3年) 植生の多様性と分布(植生とその成り立ち)</p> <p>〔個人主題〕ペアワークなどを用いた協働学習による主体的に学ぶ態度の涵養と思考力・表現力の育成</p> <p>〔AL指数40〕ペアワーク</p> <p>キ 物理基礎(2年) 波の性質(波の伝わり方)</p> <p>〔個人主題〕生徒が主体的に学びたくなるような教材研究と発問の質の向上</p> <p>〔AL指数30〕実験(生徒同士で話し合い、協力し合う)</p> <p>ク 物理(3年選択) 原子・原子核・素粒子(原子モデル)</p> |
|------------------|---|

|                            |   |
|----------------------------|---|
| <p>実<br/>践<br/>内<br/>容</p> | <p>〔個人主題〕 真のアクティブ・ラーニングとは何か<br/>〔AL指数30〕 生徒と教師の対話を重視した授業展開</p> <p>ケ コミュニケーション英語Ⅰ（1年）Paper Architect<br/>〔個人主題〕 真のアクティブ・ラーニングとは何か<br/>〔AL指数30〕 ペアワーク、グループワーク</p> <p>コ コミュニケーション英語Ⅰ（1年）Not So Long Ago<br/>〔個人主題〕 生徒の興味や意欲から始まり、考える授業<br/>〔AL指数70〕 ペアワーク、グループワーク</p> <p>サ コミュニケーション英語Ⅱ（2年）<br/>〔個人主題〕 生徒の興味や意欲から始まり、考える授業<br/>〔AL指数70〕 ペアワーク、グループワーク</p> <p>シ コミュニケーション英語Ⅲ（3年）Who Do You Want to Be?<br/>〔個人主題〕 より良い理解を生徒同士から発展させる。<br/>〔AL指数60〕 ペアワーク</p> <p>② 講演会<br/>○講師 茨城県立結城第一高等学校 棚谷 克彦 教諭<br/>○演題 「効果的な『主体的・対話的で深い学び』の授業づくり」<br/>～表現力育成のためのふりかえりの時間の在り方～</p> <p>（5）研究の成果<br/>本校の課題は、「大学入試への対応」と「アクティブ・ラーニングの導入による『主体的・対話的で深い学び』の実現」の両立を、学校全体としていかに取り組み、定着させるかであった。<br/>昨年度の校内研修で茨城県立並木中等教育学校長の中島博司先生より、アクティブ・ラーニングの在り方と効果、AL指数及びR80等のツールを学ぶ機会をいただき、本校におけるアクティブ・ラーニングの導入促進の契機となった。<br/>以降、研究授業及び研究協議会、公開研究会を経て、教員一人一人が授業改善への意識を変革させ限られた授業時間の中で「知識・技能」と「思考・判断・表現」のバランスを考えて授業を構成するスキルを向上させる等、研究成果を挙げる事ができた。<br/>授業改善は、学校にとって永遠の課題である。今後もアクティブ・ラーナー（能動的学習者）育成のために学校全体で授業改善に取り組む所存である。</p> |
|----------------------------|---|